



なじょしたあ

4月、新年度の始まりです。
今年ほど『冬』を感じることなく過ごした年はなかったと思います。国内では新型コロナウイルスの騒ぎが収まらず、何分出口のない不安が蔓延している状態を感じます。早めの終息を期待したいものです。

これまでの

感謝

これからの **願い**

東日本大震災から9年。3月11日に全国各地で追悼式が開催される予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大予防のため、規模縮小や中止になりました。

米沢市での追悼式も中止となり残念でなりません。

これまで避難者支援をされている方からメッセージを寄せていただきましたのでここにご紹介いたします。



東日本大震災から9年を迎えました。避難してから山形県はじめ県民の皆様、米沢市の皆様にご支援いただきましたこと、心より感謝申し上げます。避難されている皆様の生活環境は様々ですが、避難されている皆様の気持ちを考えながら、避難者支援業務に携わってまいります。一日も早い被災地の復興と心の復興を願っております。

避難者支援センター
おいで
上野 寛



祈念式典はできませんでしたが決して忘れません。9年又は数年の方もいらっしゃると思いますがこの米沢にご縁で私達の隣人になって下さり有難うございます。何か少しでもかかわりがもてたらと野の花交流会をもつようになりました。帰られた方も多くあの方この方思い出されますが今はお互いに垣根をとりはらい自然に楽しい会になってます。子ども達の成長がとてうれしい事です。めぐる季節とともに今日より明日が少し楽しくなりますように。

米沢友の会
野の花交流会
大友 幸子



あれから9年、皆様の苦悩の日々を思うと胸が熱くなります。私は、平成29年4月1日より「米沢市避難者支援センターおいで」にて現在まで業務させて頂きました。この4月よりおいでを離れ、こども課での業務になります。避難者の方々には、大変お世話になり心より感謝申し上げます。まだまだ不安が続いていると思いますが、諦めずに頑張ってください。皆様が1日も早く笑顔を取り戻せる日が来る事を願っております。

米沢市避難者支援センター
おいで
吉田 美樹



毎年この日は、伝国の森の追悼式に参加していましたが、今年は職場で追悼と復興への祈りを捧げました。新型コロナの話題でかき消されてしまいましたが、あの日のことは、9年経った今でも忘れることのできない大きな出来事です。被災された方や今なお避難されている方々が、元気で健やかな日々が送れますようご祈念するとともに、震災を風化させないためにも情報発信のお役に立ちたいと願っております。

復興ボランティア支援センターやまがた
事務局 長 結城 健司



避難されている皆様からは、家族とは、故郷とは、人が生きるとは、人にとっての幸せとはなど、たくさんのお話を学ぶことができました。心より感謝申し上げます。これからも皆様と共に歩いていきますので、よろしくお願いたします。

おきたまラジオNPOセンター代表
だがしや 栄校
コーディネーター
山口 充夫



米沢にきて8年、米沢市の皆様にご支援いただきましたこと心より感謝申し上げます。4月より他の業務に携わる事になり、生活支援相談員として1年と短い期間でしたが、避難者の方々から逆に温かいお言葉をかけていただいたりと、サロン等を通してたくさん貴重な時間を過ごさせていただきました。これまで避難者の方々には大変お世話になりました。心より感謝申し上げます。

生活支援相談員 石川 千春



“まちのお地蔵さん” (健康一口メモ) 『病と共に生きる健康に生きる—新型コロナウイルスその2』Vol. 59

新型コロナウイルスの感染防止のための自治体や国による外出自粛要請の最中、東京では花見のにぎわいが報道されていました。一方、東京の都市封鎖の可能性に直面するや、買いために走る人々の姿も報道されていました。日常意識の中に危機感を忘れ、一方、危機に直面するとパニックになる。こういう振れ方の中には平常心が欠落しているのがわかります。危機対応の鉄則は、最悪を想定して覚悟しそれに備えておくことにあるそうです。「自分だけは大丈夫だろう」という利己的な期待感はいつしか裏切られる。希望や、期待や、過度の心配という雑念を捨て去って、淡々と眼前する現実に向かい合う。そういう覚悟の心は、震災当初から数多く目撃してきたものです。そういう覚悟が、あれから9年たつて再び試され、必要とされているようです。いかなることに遭遇しようとも平常心という覚悟をもって生きる。これは至難の業です。イタリアでは、医療崩壊によって命の選別を余儀なくされています。より若くより回復可能性のある人間を治療する。たとえ命を助けられる可能性があってもより高い可能性のあるものに選択的に人工呼吸器を配分せざるを得ない。この否応のない残酷を前にして、自分の命を支えている人工呼吸器を別の人に譲ってほしいと、自らの命を投げ出した人がいたそうです。この否応のない残酷が極限状態で平常心を失わないでいる人間によって救済されたと言えるでしょう。否応のない残酷を残酷でないものに高めることができる。そのために本物の人間が必要なのだと言っているようです。この感染症からも我々は多くのメッセージを聴き、学んでいけると思います。

Dr. 小林 恒司

4月イベントの予定

日	月	火	水	木	金	土
			1 きっさ万世 (中止)	2	3	4
※福島県相談窓口 5月は第2・第4水曜日(予定) 6月以降は第1・第3水曜日(予定) 10:00~12:00 万世コミュニティセンター内 13:30~15:00 避難者支援センターおいで内 ※きっさ万世 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、22日(水)、 29日(水)は、 中止する場合がございます ので お問い合わせの上、宜しくお願いいたします。						
5	6	7	8 ※きっさ万世 (中止)	9 福島市役所相談窓口 10:00~15:00 置賜総合文化センター (中止)	10	11
12	13	14	15 ※きっさ万世 ※まちの保健室 (中止)	16	17	18
19	20	21	22 ※きっさ万世 (予定)	23	24	25
26	27	28	29 昭和の日 ※きっさ万世 (予定)	30		

詳しくは 米沢市社会福祉協議会 生活支援相談員までお問い合わせ下さい。

TEL 0238-24-7881

はじめまして

4月より生活支援相談員をさせて頂く井上 光(いのうえ ひかり)です。
 出身は、ダリヤ園や浴浴センターまどかのある川西町です。結婚を機に米沢に来て10年になります。今は、わんぱくな子供3人の子育てに日々奮闘中です。
 初めてのことで分からない事ばかりですが、避難されている皆様の気持ちに寄り添いながら、支援業務に携わっていきたいと思います。これからよろしくお願ひします。

井

